

実施報告書  
2025



とよた×アート=デカス

**TOYOTA  
DECASU  
PROJECT**

**IMPLEMENTATION  
REPORT**

DECASU



とよた+アート = デカス

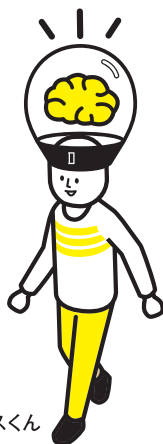
とよたデカスプロジェクトについて .....	01
入選プロジェクトの実施報告 .....	03
1 カイコ録プロジェクト 水田雅也	
2 Alternative Rice Field 高濱大心	
3 530屋台 530connection	
4 とよたBIGBOOKプロジェクト ~ともだち100人できるかな~ このよのはる	
5 HOMI ART FAIR 小田ビニシウス	
6 カラオケ・commons 鈴木一絵	
審査員による総括 .....	15
とよたデカスプロジェクト12年の歩みと幕引きに寄せて .....	19
広報活動 .....	25



## とよたデカスプロジェクトについて

2014年からはじまった「とよたデカスプロジェクト」は、自然、歴史、町並み、建物、特産品、そこに暮らす人々やその営みなど、たくさんの「宝」と人々を結びつけ、豊田市の魅力を市内外へ発信するアートプロジェクトの企画案を募集し、実現をサポートしています。アートを通した「気づき」と「人と人をつなげる出会い」が数多く生まれること、また、アートプロジェクトを総合的にマネジメントできる人が増えることを目指しています。

「出来(でか)す」とは、「つくり出す、成し遂げる」という意味で、やる気と達成感をも想起させる言葉です。  
また、「デカシタ!よくやった!」と褒め称えるような感じと、「しでかす」というちょっといたずらっぽい感じも連想させる言葉でもあります。



デカスくん



そして今年度をもって、本プロジェクトは12年間にわたる取組に区切りをつけることとなりました。  
本報告書では、今年度の実施内容および成果を掲載するとともに、「とよたデカスプロジェクト」12年間の歩みを振り返ります。

## とよたデカスプロジェクト2025の流れ

募集期間		2025年4月1日(火)~5月31日(土)
実施期間		2025年9月1日(月)~11月30日(日)
賞 金		大賞:100万円 準大賞:50万円 入選:30万円
審査基準		①クリエイティブで魅力的であるか ・目の付け所や価値の見出し方に、独創性や意外性がある・アートとして魅力的である
		②デカスらしさがあるか ・豊田市の地域資源や地域課題とアートの絡ませ方が秀逸である
		③狙いが周りに伝わり、広がりそうか ・地域住民や市内外の人に強く影響を与えられる内容である・話題性がある
		④企画に徹しているか ・アーティストを絡ませるなど、アートプロジェクトとしてプロデュースができている ・プロジェクトが上手く実施できるようなコーディネートが期待できる
		⑤夢があって応援したくなるか ・豊田市をアートで面白くしたい、深掘りしたいという思いがある・チャレンジングである
審査員		太田竜次郎(とよた演劇協会副会長) オオノユキコ(アートディレクター/ゴエンナーレ主宰) 奥泉友紀(豊田まちづくり株式会社執行役員) 松村淳子(アートエドゥケーター/アートプログラムユニット「フジマツ」メンバー) 安野太郎(作曲家/愛知県立芸術大学准教授)
応募総数		21件
審 査		1次審査:2025年5月31日(土)【書類審査】 21件→21件  2次審査:2025年6月22日(日)【プレゼンテーション審査】 ・大賞:1件 ・準大賞:2件 ・入選:3件
報告会		2026年2月15日(日)

## 入選プロジェクトの実施報告

大賞

### カイコ録プロジェクト

企画者：水田雅也

開催日：①展示 | 9月23日(火・祝)~10月5日(日) ②本展示 | 11月15日(土)~11月16日(日)

開催場所：①豊田市博物館 えんにち空間 ②豊田産業文化センター 喜楽亭



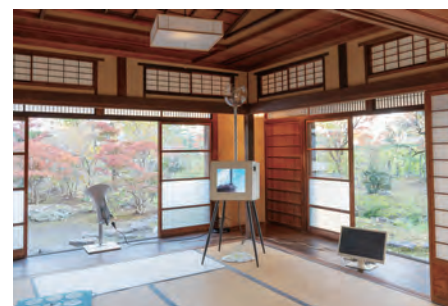
#### プロジェクトの内容

アーティスト、地域文化研究者、デザイナー、豊田市で活動する団体など、多様な立場から、カイコという生き物と豊田という街に懐古的に向き合うプロジェクト。リサーチと創作の記録を、2回の展示と本として発表した。制作段階では、地域資料の調査や、養蚕に関わった方々への取材を行い、得られた記録や、そこから着想した表現を展示で公開し、本にも収録した。

#### 協力者・出演者・出展者など

【展示作家・執筆者】水田雅也 / 兒玉真太郎 / 村上健太 / ヤマトナツキ / 旦妃奈乃 / 水田薫 / 松尾美江 / 高梨麻梨香 / 池田飛鳥 / 光光機構 / 小鳥乃子 / とよた五行歌サークル / chan / 野村拓矢 / いなぶシルクつながるプロジェクト / 鈴木光泰 / 光野るな

【協力】いなぶまゆっこクラブ / いなぶシルクつながるプロジェクト / 九州大学大学院 農学研究院附属 遺伝子資源開発研究センター 家蚕遺伝子開発分野 / 豊田市博物館 / 豊田産業文化センター / とよた五行歌サークル / 杉山允朗 / 大嶋靖之 / 中根敏夫 / 古橋幹雄 / 矢野泉 / 伊藤順市



#### 企画者の感想

本プロジェクトでは、豊田市とカイコというテーマのもと、地域に関わる多くの方々にお話を伺うことができた。特に、養蚕に関わっていた方々や地域文化に詳しい方々を、数珠つなぎ的にご紹介いただきながら、広がりのある取材を実施できたことは大きな成果であった。取材に協力してくださった方々は、過去の記憶を丁寧に語ってくださり、なかには、昔のことを聞き取ってもらえたことや、それが展示や本として形に残ることを喜んでいる様子も見られ、企画者として非常に励みとなった。記録を残すという行為そのものが、回顧と共有の場になったと感じている。



#### 審査員の講評(オオノユキコ)

豊田市が拳母町であった頃に盛んであった養蚕業。その主役の「蚕」に着目した企画です。「蚕」と「懐古」、言遊びの妙もさることながら、詳細なリサーチや実験が行われ、様々な切り口で地域の移り変わりや人々の暮らし、心情までも明らかにしてくれました。個人の懐古が地域の記憶となりうる有意義な取組だと思えます。

プレ展示では豊田市博物館の回廊を使い、豊田の養蚕を意識した取組であることを多くの方に知っていただけました。地域との関わり方も丁寧で、参加した方々全員が意識高く取り組んでいるようでした。喜楽亭での本展示はコンパクトながらも見せ方が面白く、風情ある建物と相まってゆっくりと楽しむことができました。リサーチからアーカイブまでプロジェクト全体がうまくデザインされていると感じました。さらにその成果が書物「カイコ録」となりました。広く読まれることで次に繋がることを期待したいです。

実績 | 参加者数3,767人 うちスタッフ等の人数20人

準大賞

## Alternative Rice Field

企画者：高濱大心

開催日：11月24日(月)～11月30日(日)

開催場所：大橋園芸



### プロジェクトの内容

本企画は、豊田市内で農業を営む大橋園芸の田んぼおよびビニールハウスを活用し、現代アートを通じた地域交流を図ることを目的として実施したものである。愛知県内の学生等による現代美術作品の展示を行い、農業空間における芸術表現の可能性を検証した。また、会期中には音楽演奏、トークイベント等を実施し、来場者が農業や地域文化について理解を深める機会を提供した。最終日には、市内を拠点とするバンド「ALKDO」による音楽パフォーマンス、参加作家による出店、

ワークショップ等を開催し、多様な参加者が交流できる場を創出した。

協力者・出演者・出展者など

【協力】大橋鋭誌(大橋園芸代表) / アートラボあいち / 名古屋芸術大学木工房

### 企画者の感想

今回のプロジェクトを通して、これまでまったく関わり合うことのない人やコミュニティ同士の交流機会を創出できたと思う。地元での開催ということもあり、企画者自身の小中の同級生や近隣の方々が数多く訪れ、愛知県内で美術を学ぶ学生との、作品や食を通じたコミュニケーションに主体性をもって取り組んでいたのが印象的であった。アートに馴染みのない土地へのアートの導入を目的としつつも、その過程で愛知県内の多様なルーツをもつアーティストを農業空間に集わせること、そしてその空間に対して思う存分の挑戦をしてもらうことによって生まれるアーティスト同士の交流にも着目すべきだろう。名古屋から1時間ほど離れた豊田のさらに郊外ということもあり、リサーチや搬入に訪れるアーティストにとってそれは小旅行的な非日常体験でもあった。その時間を共有し合えたことは、彼らのこれからの活動にとっても記憶に残る体験となったはずだ。また、企画者にとっても本プロジェクトは初めての試みだらけであり、経験ある大人からのたくさんの助言や助力なくして開催することはできなかった。多くの人を巻き込んでのプロジェクト運営の大変さ、とくに細かい情報の共有や連携の難しさを肌で感じられたのは、自身にとって良い経験となった。多くの来場者や関係者から次回開催を期待されたのは予想外だったが、このプロジェクトが彼らにとってそれだけの価値があるものとして受け取られ、継続することの可能性を感じさせることができたのだと考えると、無事に成功したと言っても差し支えないだろうと思う。



### 審査員の講評(奥泉友紀)

私ごとですが地域のお祭りに携わっています。子ども祭囃子に参加していたが、いつの間にか離れてしまい、大人になってから戻ってきたパターンです。本来であれば豊穡や安泰に感謝する大例祭なのでしょうが、あの頃原風景・原体験に還り1つ年齢を重ねてリセットする感覚が何か思い出されました。

地域の田園風景に対する企画者の愛着を形にした当プロジェクトは、収穫を終えた田んぼに企画者の仲間と作品が集い、少し肌寒い夕焼けの中で自由な表現を持ち合う様がとても平和で素敵でした。フィナーレに向かう夕焼けマジックアワーも美しかったですね！雨天対応が可能なビニールハウスも展示ライブ会場として活用されていました。過去にもビニールハウスを使ったライブ型プロジェクトがありましたが、農業のプロしか入れない特別感があって勝手にテンションが上がります。子どもやご年配層も普通に居る、要所にガードマンの配置や関係車両の発行もある、地域にきちんとコミットもされている印象でした。地域の皆さんには今回のプロジェクトはどのように映ったのでしょうか。

実績 | 参加者数250人 うちスタッフ等の人数15人

準大賞

## 530屋台

企画者: 530connection

開催日: ① 9月21日(日) ② 10月19日(日) ③ 11月14日(金) ④ 11月21日(金)

開催場所: ① kabo. ② think ③ 新とよパーク ④ エヌロク・立ち呑みスタンドメルカド



### プロジェクトの内容

ふと気づくとまちに佇むゴミ。ボーイ捨てたくないけどゴミ箱が無いもんで！なんて声も聞こえる。ならばゴミ集めでまちなかを面白がってしまおうじゃないか！大工さんや豊田のみなさんと改めて「豊田らしさ」を考えたり、おっきな車輪のついた屋台をつくり、いざまちへ！

ワークショップを通じて、参加者のみなさんからいただいた「豊田らしさ」を表現する物？ゴミ？を集めて真空にしてパッケージングし屋台に装飾したり、実際に出来た屋台でまちに繰り出し、ゴミ？集

めを通じて、普段はすれ違うだけのまちの人と言葉を交わしたり、ゴミの悩ましさについて話したり。ワークショップでもゴミ？集めでも、会話をすることで、予想以上に「豊田が好き」と言葉にしてくれる人たちに会えた時間となった。

協力者・出演者・出展者など

【協力】大工の六鹿崇史さん / kabo.の犬飼詩織さん / thinkの小野健さん



### 企画者の感想

「ゴミ」というものへの関心や、豊田の「良さ」「らしさ」のイメージを、普段は表立って見聞きしたり、目にするものもなかなかないが、思っていた以上に多くの人に関心を寄せたり、考えているという事を今回のプロジェクトを通じて感じることができた。

①豊田らしさをみんなで探る ②屋台と共にまちを歩きゴミを集める ③屋台を容器回収場所として活用する、といった取組を今回のプロジェクトでは行った。その中で、普段まちで行われている清掃活動では、ゴミを集めている人とそれ以外の人、と分断されてしまうが、動かせる屋台と共にゴミを集めてみると、通りすがりの人が拾う仲間となり「一緒に捨ててもらえますか？」と渡してくれたのも印象的だった。また、屋台に張り付けたみなさんから寄せていただいた「とよたらしさ」が会話のきっかけになり、その人の思い出や「豊田おもしろいところありますね～」なんて話にも。また、容器回収をアンケートスタイルで行うことが会話のきっかけになったことも興味深かった。ゴミをゼロにすることはなかなか難しいかもしれないが、ゴミを不要なものとして廃棄して終わるのではなく、それをきっかけに豊田のまちに興味を持ったり、人と出会い、繋がる試みを今後も模索していきたいと思う。

### 審査員の講評(松村淳子)

2度目の採択で、前回からステップアップを試みた活動になったと思います。豊田市駅周辺の「ゴミ問題」から「豊田らしさ」へ着目した点は前回から引き続きですが、その活動の「拠点」として屋台をつくることができたのは大きな成果です。屋台も既存のビール箱などを活用し、SDGsにこだわっていたりとゴミを扱う活動ならではの造形になりました。前回からのゴミを集めてパウチし展示することも引き継がれましたが、屋台に展示することによって、よりダイレクトにゴミ問題があることやそれを「見るもの」として扱うことなどが示されるようになったと思います。その屋台の存在感も抜群で、実際に駅周辺を回った際には、若者にも受け入れられ、ゴミ集めをしてもらえたことは良い結果でした。一方で、屋台をつくることに注力してしまったようにも感じられます。せっかくの拠点をもっと活かせるように、繰り返し「出勤」させることが今後の目標になるのではないのでしょうか。また、博物館との連携や、美術館のマルシェへの参加などの可能性も感じられ、活動の幅が広がる予感がしました。このデカスでの2年の経験が、今後長く取り組める原動力になればと期待します。

参加者数82人 うちスタッフ等の人数2人

入選

## とよたBIGBOOKプロジェクト ～ともだち100人できるかな～

企画者:このよのはる

開催日:9月14日(日)～10月4日(土)

開催場所:ごはんやカカ、STREET COFFEE&BOOKS、小原瀬戸芸術祭2025 他



### プロジェクトの内容

まささらでまだ何も描かれていない大きな本を作る。このよのはるが豊田市の各所にその本を持ち出し、そこで出会う人たちに絵や文字を描く、写真や思い出のチラシを貼るなど本にのびのび自由な表現をしていただき、現在進行形で出会ってあそび紡がれていく1冊のものがたりをつくる。

### 協力者・出演者・出展者など

【協力】ごはんやカカ / 安藤卓児 / STREET COFFEE&BOOKS / 鞍ヶ池プレーパーク / はなみじGIRO. / がまきたいっか / 小原瀬戸芸術祭2025 / Mikawa Art Center



### 企画者の感想

今回は大きな本を作り市民の方たちに自由に描いてもらい物語を紡ぐという企画を実施しました。豊田市にゆかりのある数字で作成した本には、それぞれ自由に絵を描いたり文字を書いたり切ったり貼ったりしてもらいました。全体での参加人数は目標の100人を超えました。

実施する場所によって作られていくページはそれぞれ個性的で、子どもが多いところでは絵の具を思いっきり使ったのびのび描いたり、静かな室内では1つの絵を真剣に描いたり。最後は手に取りやすい小さな本にして場所を提供してくれた方たちにお送りしました。

今まで豊田で出会った人たちが各所イベントに何回も来てくれて、また何かをするきっかけになったこと、新しく出会えた方もたくさんいました。

私たちは市外から来ているので、このような機会があると豊田市の方たちと出会うことができます。豊田市の魅力は、住む人ただと思っているので、これからもたくさん出会って、もっとしてかしていきたいと思います。

得られた成果は、私たちは普段は音楽や似顔絵パフォーマンス活動をしていて、そのチケットや物販が生活に直結するので、頭の片隅に数字を入れ込んでいるのですが今回は本のページが楽しくなりどうすれば生き生きするかよく考えられて、その時間は自分も生き生きする時間でした。

### 審査員の講評(太田竜次郎)

豊田市内のいろいろな場所で出会った人たちと1冊の大きな本を創るプロジェクト。本のサイズや枚数は豊田市の人口や面積などを参考にこだわりのビックサイズでした。初期段階では会期内に市内3か所程度で開催と聞いていましたが、まさに神出鬼没、次々に違う開催地の連絡が舞い込んできました(事務局の方は大変だったと思います)。豊田市内では収まりきらず蒲郡市まで飛び出して行われていました。

制作された本は各ページごとにいろいろな作品が所狭しと書き込まれて、1つ1つにいろいろな画材(クレヨン・絵の具・紙・布など)で彩られ、1つの作品の中にいろいろな個性が詰め込まれていました。ページをめくるたびに次はどんなだろうと興味を引き付けられました。

そして作品も素晴らしかったですが、過去何度も豊田市で活動してきた2人は持ち前のコミュニケーション力で色々な「縁」を豊田市内に張り巡らせてきたことが今回のプログラムにプラスに働いていたように思います。この張り巡らせてきたものをもっと深く太く根付いていくこと、また2人に会えることを願っています。

実績 | 参加者数140人 うちスタッフ等の人数3人

入選

## HOMI ART FAIR

企画者：小田ビニシウス

開催日：9月27日(土)

開催場所：保見団地各所(141棟集会所、ケアセンターほみ前、25棟地球家族)



### プロジェクトの内容

子どもから大人まで多様な外国ルーツを持つ人々が住んでいる保見団地にて活動している「保見アートプロジェクト」に関わるアーティストによる無料ワークショップまつり「HOMI ART FAIR」を開催。

### 協力者・出演者・出展者など

【協力】一般社団法人JUNTOS / NPO法人トルシーダ/ 保見アートプロジェクト



### 企画者の感想

「HOMI ART FAIR」は、多国籍の住民が暮らす保見団地において、アートを媒介とした交流の機会を創出することを目的に開催されました。3名のアーティストによる多様なワークショップは、子どもから大人まで幅広い参加者が楽しめる構成であり、実際に複数会場で多世代・多国籍の住民が集まり、対話と体験を通じて交流が生まれました。特に、親子連れや普段アートに触れる機会の少ない人々が気軽に参加できたことは、プロジェクトの理念に沿った成果といえます。また、ワークショップが「ものづくり」だけでなく「一緒に作る」ことを重視していたため、参加者同士の自然な会話や笑顔があふれ、地域の関係性がより深まったことを実感しました。アーティスト側にとっても、作品展示とは異なる住民との距離の近さや、文化的背景の異なる人々から直接反応を得られる貴重な機会となりました。運営者としては、企画・広報・当日の会場管理を通じて、地域でのイベント運営力をさらに高める経験を積めた点も大きな収穫でした。総じて、本イベントは「アートを通じた多文化共生」という目的を体現できたとともに、今後につながるネットワークや新たな参加意欲を引き出す場として一定の効果を発揮したと考えられます。



### 審査員の講評(安野太郎)

このプロジェクトは、保見団地という多国籍住民が暮らす地域特性を踏まえ、団地内の複数拠点を会場としてアートフェア形式で展開した点に特徴があります。各ワークショップはいずれも制作体験を中心とした内容で、子どもから大人まで参加しやすい構成となっており、アーティストの関与によって会場ごとに柔らかな雰囲気が形成されていました。団地内を回遊する導線は、日常空間の中に点在するアートに目を向けさせる仕組みとして有効であり、地域資源の活用という観点からも評価できます。また、参加費を無料とすることで来場のハードルを下げ、住民が気軽に立ち寄れる環境づくりが意識されていました。一方で、空間が「居心地よくなる」こと自体が、無意識のうちに新たな内外の境界を生む可能性についても、今後はより丁寧に考えていく必要があると感じました。成果を前提とするだけでなく、そこからこぼれ落ちる視点も含めて活動をどのように継続・発展させていくかが、次の段階での重要な課題になると思います。

参加者数111人　うちスタッフ等の人数4人

入選

## カラオケ・commons

企画者：鈴木一絵

開催日：11月15日(土)～11月30日(日)

開催場所：豊田市美術館



### プロジェクトの内容

アーティスト東方悠平氏を招聘し、豊田市在住のベトナムをはじめとする東南アジア出身者を対象に、音楽にまつわる感情や記憶、個人的経験を聞き取るリサーチ型アートプロジェクトを実施。成果は豊田市美術館にて展示し、同展示を起点として、来場者が市内に点在する東南アジアに関連する場所を巡る回遊(クエスト)型の鑑賞をデザインした。音楽を媒介に多様な背景をもつ人々が交流する場の創出を目指して、ベトナム出身DJを招いた関連イベント「Vinahouse DJ セッション&カラオケ大会」を開催した。

### 協力者・出演者・出展者など

【協力】豊田市美術館 / 豊田市国際交流協会 / Hac Xua Restaurant -Toyota / Sariraya Mart Plus + / Bulakeno's



### 企画者の感想

本事業を通じて、企画者自身がアーティストとともに豊田市内でリサーチを行う過程において、これまで十分に把握できていなかった地域の実情や多様なコミュニティの存在を理解する機会を得ることができた。特に、国際交流協会をはじめとする市内の団体の取組や、日本語教育や生活支援ボランティアに関わる人材の層の厚さから、豊田市が有する多文化共生の基盤とその蓄積を実感することができ、企画者自身が豊田市の「宝」を改めて認識するに至った。

展示および関連イベントといったアウトプットを通して、「多様性のまち・豊田」という側面をアートを媒介として可視化し、市内外から訪れる来場者に提示するという当初の目的については、一定の達成が図られたと考える。ベトナム出身者をはじめ、これまで美術館を訪れる機会が少なかった層の来場や参加が見られた点は、本事業が新たな接点を生み出す契機となったことを示していると考えられる。今後は本事業で得られた手応えを踏まえ、継続的かつ発展的に同様の企画を実施し、地域における文化交流の場を広げていく試みを続けたい。

### 審査員の講評(奥泉友紀)

外国語でもある「カラオケ」を合言葉に展開された交流型プロジェクトです。ベトナムではカラオケは趣味や嗜好・接待の道具etc.色々な役割で使われているものの、コミュニティ・絆を深めるためのもの(何かの拍子にすぐ歌い出す感じ)として日常生活に溶け込んでいるそうです。

企画者の鈴木さんと立ち話した際に「ベトナムは社会主義共和国なので、言論との向き合い方がとってもスマート」といった主旨の会話も非常に印象に残りました。

そんな印象もあってか、私自身の学びもあった今回のアートプロジェクトには、遊びを通じた明るさと、単に自由さだけではなく、どこか達観されたスマートな逞しさを感じさせられます。

プロジェクトの基地となる市美術館から出発するクエストツアーは、未だ行ったことのないアジアの食材雑貨店を再発見できる素敵なキッカケです。当初企画者ご自身も豊田市のことは駅と市美術館しか知らなかったとのこと。街中にはまだまだクエスト可能なスポットは沢山あるのでしょうか、実際に歩いて確かめないと分からないことばかりですね。

実績 | 参加者数538人 うちスタッフ等の人数8人

## 審査員による総括

太田竜次郎 とよた演劇協会副会長

### デカスプロジェクト2025総評

今回初めて審査員として参加させていただきましたが、審査会から数多くの魅力的な企画が多く甲乙つけ難い企画もありました。その中で選ばれた企画は色々な可能性を秘めたものだったと思います。なかにはもう少し詳細を詰められたらもっと良くなる感じたものもありました。ですがデカスプロジェクトは初めの一歩だったり、新たなチャレンジをするきっかけのようなものだと思います。やってみて気付く事・失敗から学べる事も多くあると思います。是非その気づきを活かして、またこの街のどこかで、してかしてもらえ事を願っております。

### これまでのデカスプロジェクトの中で最も印象に残った企画

2023年採択のNeaa!さんのクラフト演劇体験

『観るものから演るもの』は受け身になりやすい演劇体験(鑑賞)において、気軽に参加でき、すそ野を広げる企画に思えました。



しばふでクラフト演劇体験!(2023)

オオノユキコ アートディレクター/コエンナーレ主宰

### デカスプロジェクト2025総評

採択数は6本と少なかったのですが、いずれも「アート」という言葉に違和感のないアートプロジェクトらしい企画でした。丁寧なリサーチ、地域の方々との関係作り、オリジナリティあふれる見せ方など、アプローチも表現方法も様々で充実したデカスプロジェクトとなりました。賞金額の見直しも影響したのかもしれませんが、企画者全員がこの経験を単なる一過性のものとせず、次に繋げる意思があることを知り大変希望が持てました。また、事務局の皆さんと一緒に盛りに上げていたことも印象的でした。残念ながら今回でデカスプロジェクトは終了ですが、最後に新たな芽吹きを感じることができてよかったです。

### これまでのデカスプロジェクトの中で最も印象に残った企画

「足助コエンナーレ」です。地域の人・アーティスト・ボランティア・スタッフと立場も年齢も違う方々が協働し、足助を盛り上げようと情熱を注ぎました。また訪れた方々がSNSなどで話題にくださったことも大きな力となりました。自分が関わったことを抜きにしても「足助コエンナーレ」は開催のたびに成長し、地域主体のアートプロジェクトの醍醐味を体現したプロジェクトだったと思います。



足助コエンナーレ「藝術的桃源郷」(2016)

奥泉友紀 豊田まちづくり株式会社執行役員

### デカスプロジェクト2025総評

「愛を中心に据えて考えていないからアカンのだ…」尊敬する演出家のお説教にあった言葉で、イベントロジに忙殺され疲弊しかけていた当時の私にとって、昨年最も背中を押された金言です。いつもですが、今回は特に受賞プロジェクトは迫力のあるリサーチが散見されたのではないのでしょうか。各プロジェクトには企画者の価値観が必ずあって、丁寧にリサーチから実地に移行する過程において、企画者自身のこだわりや受け手へのメッセージ「愛を中心に据えている感」が感じられると、やっぱりその企画は面白くてカッコいいよなあ…見習わないとアカンよなあ…という学びにもつながりました。

### これまでのデカスプロジェクトの中で最も印象に残った企画

- ① コロナ禍中のWEB企画…制約も多く皆が不安な中で、何とか希望を見出そうと挑戦していただいていた。
- ② 自動車など製造業技術者による企画…ユニークな乗り物やVRなど技術力やデザイン力を駆使した企画は直球的な豊田らしさだったのでは。
- ③ 企画名:カイク録プロジェクト…丁寧かつ淡々とした印象のリサーチに迫力を感じた。個人的にも「カイクのまち」を薄ら記憶していて本が面白かった。



SENSORIAL DRIVE  
一ひと車の共感覚-(2019)

松村淳子 アートエディター／アートプログラムユニット「フジマツ」メンバー

### デカスプロジェクト2025総評

今年は特にリサーチがしっかりされていた印象です。養蚕を取り上げた「カイク録プロジェクト」、田んぼを舞台にした「Alternative Rice Field」、歌を起点にした「カラオケ・commons」、そして「530屋台」もリサーチが企画の軸になっていました。「HOMI ART FAIR」と「とよたBIG BOOK プロジェクト〜ともだち100人できるかな〜」は、地域の人々との深いコミュニケーションを軸に、継続した活動だからこそその深みを感じられました。毎回今後への期待が高まるのですが、デカスが豊かな萌芽を期待させる種まきをしているとより強く感じさせられる企画が集まっていたと思います。

### これまでのデカスプロジェクトの中で最も印象に残った企画

企画を1つ選ぶというのは難しく、全体のことを。印象的だったのは、高校生や大学生、大学院生といった若い皆さんが参加されていたことです。デカスによってアートプロジェクトと出会い、多様な人々と関わり、活動の機会を得たことで、今後にも大きく影響をするような体験ができたと思います。こうした経験をした若い世代がいるということは、デカスが残した大きな財産であると思います。



Fujioka Art Project(2024)



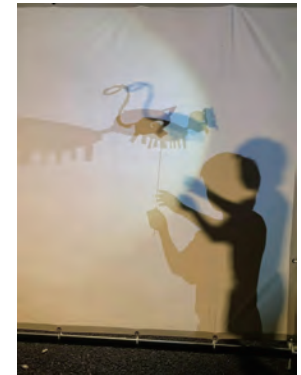
安野太郎 作曲家／愛知県立芸術大学准教授

### デカスプロジェクト2025総評

デカスプロジェクト2025は、地域資源や地域課題に対してアートを通じて関与しようとする意欲的な試みでした。市民の生活空間に踏み込み、住民との接点を創出した点は評価できます。一方で、短期的な成果や可視化しやすい活動に重点が置かれる中で、アートが地域の構造そのものにどこまで作用し得たのかは、十分に検証されていない印象も残ります。構造への作用とは、例えばアートイベントがあった時だけでなく、普段の生活の中にもイベントで生まれた人と人との関係性が残って、さらに何かが生まれるみたいなことです。デカスプロジェクトは今年度で終わりですが、ここで生まれた問いが、いかに今後の文化施策へ接続していくのが重要だと思います。

### これまでのデカスプロジェクトの中で最も印象に残った企画

2024年に行われた行燈のイベントが印象的でした。イベントの日に他のデカスプロジェクトの企画者たちも集まって参加していることが良かったです。企画単体の成果も大事ですが、企画同士の横のつながりが見えたことが良かったです。



一明かりと戯れ影と遊ぶー  
オバラおかげ祭(2024)

## とよたデカスプロジェクト12年の歩みと幕引きに寄せて

豊田市に息づくたくさんの「宝」と人をつなぐアートプロジェクトとして、「とよたデカスプロジェクト」は12年にわたり、多彩な企画を育んできました。アートを通じて生まれた気づきや出会いは、地域の魅力を再発見し、広く発信する力になってきました。ここでは、これまでに実現してきた企画の数々を振り返ります。

### 2014

コース	プロジェクト名	団体名・企画者名
デカス	足助ゴエンナーレ	足助ゴエンナーレ実行委員会
デカス	農村舞台でワヤンクリ	オバラリアンス(竹内正美)
デカス	ものづくりの里 豊田アーティスト'sオープンスタジオ "TAOS"	白水ロコ
デカス	リスペクト☆矢作川で踊り隊!〜ダンスで感じる×楽しむ×みんなの矢作川〜	佐藤小夜子 DANCE LABORATORY
デカス	「木の下で」こどもとおとなアートであそぼ!	中根理
デカス	森はアトリエ at 鞍ヶ池公園	tre punte(トレ・プンテ)
デカス	祝祭〜「マツリ」をつくる〜	新美優
デカス	とよた50景「四季を歌う」	柴信次
ここデカス	能というテクノロジー	小幡洋一
スタートアップ	とよた・土器でDOKI DOKIプロジェクト	スローライフ研究会
スタートアップ	限りないお茶の魅力〜味わうお茶、観るお茶〜	中根めぐみ
スタートアップ	松平の宝さがし	松平の宝さがし実行委員会
スタートアップ	豊田市駅前通り商店街北地区 映画製作プロジェクト	さゆみ企画



リスペクト☆矢作川で踊り隊!



森はアトリエ at 鞍ヶ池公園



豊田市駅前通り商店街北地区  
映画製作プロジェクト

### 2015

コース	プロジェクト名	団体名・企画者名
デカス	農村舞台でワヤンクリ スタソー物語(後編)	オバラリアンス(竹内正美)
デカス	合わせて100歳写真館	合わせて100歳写真館プロジェクト
デカス	祝祭〜「マツリ」が結ぶ〜	祝祭プロジェクト
デカス	一青空の下 満天の星空の下でー「土と遊ぼう!」	豊田文化フォーラム
デカス	アートあそびプロジェクト「思い出の鞍ヶ池」	tre punte(トレ・プンテ)
デカス	ものづくりの里 豊田アーティスト'sオープンスタジオ "TAOS"	白水ロコ
でらデカス	足助ゴエンナーレ2015	足助ゴエンナーレ実行委員会
でらデカス	「木の下で」こどもとおとなアートであそぼ!	「木の下で」こどもとおとなアートであそぼ!実行委員会
ここデカス	豊田のジャポニズム	ひでみちこ
ぶちデカス	限りないお茶の魅力II 香り高き下山アート茶会	中根めぐみ
ぶちデカス	動物園で初体験!〜檻の中から見る世界〜	杉山絵理
ぶちデカス	とよたこども新聞	後藤真一
ぶちデカス	とよたCM製作プロジェクト	さゆみ企画
ぶちデカス	とよた・天狗と魔女のアートクラブ	エフ☆アートクラブ
ぶちデカス	とよたをうたおう	那須仁美
ぶちデカス	Viva en 無人島! 水でDOKI DOKIプロジェクト	スローライフ研究会



祝祭〜「マツリ」が結ぶ〜



ものづくりの里 豊田アーティスト's  
オープンスタジオ "TAOS"



とよたをうたおう

### 2016

コース	プロジェクト名	団体名・企画者名
デカス	音ヲ観ル「観音」	北三河アートプロジェクト
デカス	祝祭〜「マツリ」でほく〜	祝祭プロジェクト
でらデカス	足助ゴエンナーレ2016「藝術的桃源郷」	足助ゴエンナーレ実行委員会
ここデカス	市民で創ろう!「能楽堂音楽祭」	似てない屋
ここデカス	豊田のジャポニズム2016	ひでみちこ
ぶち優秀	豊田市映画製作プロジェクト2016	さゆみ企画
ぶち優秀	出張!手羽先原人lin とよた	鈴木優作
ぶち優秀	地震でDOKI DOKI...親子でボウサイアートゲーム	スローライフ研究会
ぶち優秀	限りないお茶の魅力III 稲武のお茶「桶・渋・寒」	中根めぐみ
ぶち入選	とよた香考(かおりこう)ー六所山の森ー	敦木愛子
ぶち入選	民家で生け花を	翠泉会
ぶち入選	豊田市の四季を使ったミュージックビデオ制作	宝塚大学田島悠史研究室
ぶち入選	こどものためのプログラミング&アート 〜とよたの森の動く絵本アプリを作ろう!〜	とよぶら
ぶち入選	カラダがしゃべって踊ります!小渡の自然とカラダで戯れよう!	野田順子
ぶち入選	おとのわコンサートとミニ満月市	満月市実行委員会



足助ゴエンナーレ2016  
「藝術的桃源郷」



出張!手羽先原人lin とよた



地震でDOKI DOKI...  
親子でボウサイアートゲーム

### 2017

コース	プロジェクト名	団体名・企画者名
デカス	ゴエンナーレ・スイッチプロジェクト「足助 de ハイスクール」	オオノユキコ
デカス	プロジェクション・マッピングと朗読パフォーマンス「スカイワーム・ロスト・ゴールド」	山田晋平
デカス	限りないお茶の魅力は、ここにあり。足助「暮らしのお茶」 猿投「器とお茶」	中根めぐみ
デカス	とよたマッピング:豊田市のプロジェクションマッピングをつくろう	田島悠史+渡邊哲意+宝塚大学
デカス	豊田のジャポニズム2017~美の祭典・着物で巡る過去・現在・未来~	ひでみちこ
デカス	豊田市映画製作プロジェクト2017	さゆみ企画
ぶちデカス	音なSalon	音好会
ぶちデカス	とよた香考ー春の自然観察の森ー	敦木愛子
ぶちデカス	Musika de Musica 六鹿(ムシカ)で音楽(ムジカ) ー豊田の木のカホンをつくって、鳴らして、聴く1日ー	office codonart
ぶちデカス	橋の語り夜	道楽同盟
ぶちデカス	ソメテマツテマウ〜豊田を染めて、纏って、舞う〜	ほっとスタジオTSUBOMI 野田よりこ
ぶちデカス	原人と作ろう!とよた土器	鈴木優作
ぶちデカス	民家で生け花を2	翠泉会



豊田のジャポニズム2017  
~美の祭典・着物で巡る過去・現在・未来~



豊田市映画製作  
プロジェクト2017



とよた香考  
ー春の自然観察の森ー

### 2018

コース	プロジェクト名	団体名・企画者名
デカス	足助ゴエンナーレ「足助的芸術界限」	足助ゴエンナーレ実行委員会
デカス	場をひらくー豊田南部芸術遊技場「アトリエVIP」プロジェクトー	office codonart
デカス	音なSalon2018	音好会
デカス	豊田のジャポニズム2018	豊田のジャポニズム
デカス	薪ー1グランプリ	豊森小屋(都築宣博)
デカス	Road of The Cannes!	坂本保範[NegaPosi FILM]
ふちデカス	愛石、尺八、山野草のコラボプロジェクト	藤岡愛石会
ふちデカス	民家で生け花を3	翠泉会



場をひらくー豊田南部芸術遊技場「アトリエVIP」プロジェクト



愛石、尺八、山野草のコラボプロジェクト



民家で生け花を3

### 2019

コース	プロジェクト名	団体名・企画者名
デカス	アートデイズとよた2019「Toyota Specific」	SHIMAYAGI ART
デカス	ーRoad of Cannes! 2ー	NegaPosi FILM
デカス	SENSORIAL DRIVE ーヒトと車の共感覚ー	MUSIFY
デカス	足助百物語	足助百物語実行委員会
デカス	TOYOTA HACK CAMP	MOBIUM
ふちデカス	愛石、生き物のコラボプロジェクト	愛石クラブとよた
ふちデカス	桜城址シネマ2019	桜城址シネマ実行委員会
ふちデカス	とよたデッサン会～ラガーマン～	敦木愛子
ふちデカス	とよたの木材・廃材でアート作品を飾るオリジナル額縁をつくろう!	アート維新
ふちデカス	○△□の神話ー豊田～愛知～大阪～日本ー	○△□(まるさんかくしかく)



アートデイズとよた2019「Toyota Specific」



SENSORIAL DRIVE ーヒトと車の共感覚ー



TOYOTA HACK CAMP

### 2020

コース	プロジェクト名	団体名・企画者名
デカス	小原和紙を使った直径5メートルの太鼓	斉と公平太
デカス	コロナに負けるな とよたいかんぬ非接触映画祭	NegaPosi FILM
デカス	TOYOTA HACK CAMP 2020	MOBIUM
デカス	大地に溶け込む「記憶の花ことば」	ふくながめぐみ
デカス	ART rental BOOK	SHIMAYAGI ART
デカス	Asuke 夏の音	Asuke夏の音製作委員会
デカス	つながろう!パイプオルガンと市民の歌声	Organ-Project「2138」
デカス	Baton Book Box	山谷麻美子
デカス	ART IS IN とよた	アート維新



大地に溶け込む「記憶の花ことば」



Asuke 夏の音



Baton Book Box

### 2021

コース	プロジェクト名	団体名・企画者名
デカス	小原和紙のつばさ～模型飛行機が夢を運ぶ～	小原ペーパーアート・ファンクラブ
デカス	アート×リトリート in とよた	後藤香
デカス	サイレントミュージックジャパンとよた	このよのはる
デカス	江戸太神楽、足助屋敷を門付ける～作り手と演じ手が出会う公演	風来舎
デカス	「森とつながる。アートでつながる」～あなたもわたしもアーティスト～	紫乃～murasakino～&容子
デカス	小原和紙のいえすきキット	安藤麻里亜
デカス	KAMICCO Dance Project	伊藤章宏-Oz-
デカス	Art is in YOU	アート維新
デカス	髪の木プロジェクト in とよた	ふしぎcreative
デカス	ART IN HANDS	山谷明広
デカス	とよたフェスティバル	とよたフェスティバル実行委員会(鈴木美苗)
ふちデカス	和紙DeマスクFeat.歌舞伎	和紙artプロジェクト事務局
ふちデカス	お散歩アートラボ	安斎久美



江戸太神楽、足助屋敷を門付ける～作り手と演じ手が出会う公演



アート×リトリート in とよた



髪の木プロジェクト in とよた

2022

コース	プロジェクト名	団体名・企画者名
デカス	金蔵連楽団 ～大自然の中の音楽会～	矢澤 英介
デカス	旅するひみつきち ～トップシークレットハウスジャパンとよた～	このよのはる
デカス	まちなかサウンドデザイン	杉野 智彦
デカス	Café da manhã ～モーニング～	小田 ビニシウス
デカス	お散歩アートラボ ーツクテツカワー	安齋 久美
デカス	どっどど、どどうど元気風～マリオとはる 水カンリンバ制作ワークショップ&ウマレカエリ上映会&縄文ライブ	ラグズ・メグミ
デカス	「私」から見た豊田 ～デジタル空間上で地域の魅力を再発見～	楊 慶新
デカス	Toyota Foods Plate	をかし会
デカス	日輪のひまわり	et それいゆ 磯貝 瞳
デカス	Quenelle 感覚つながる 小型EV	MUSIFY
ふちデカス	天地織	365 wishes
ふちデカス	あなたの思い手のこしませんか?	成田 帆花



旅するひみつきち  
～トップシークレットハウスジャパンとよた～



Café da manhã  
～モーニング～



Toyota Foods Plate

2023

コース	プロジェクト名	団体名・企画者名
デカス	One Day Night Club in Inabu	晏菜
デカス	ビッグリカメラ!!	TEAM写楽夢
デカス	旧小原村・古民家演劇企画「はなやしき」	瀬口 未央
デカス	papie Pojagi! 紙でつなぐ	鷹巣 由佳
デカス	しばふでクラフト演劇体験!	Neaa!
デカス	和でつむぐ 豊穰の風光	フォーレ エ ソレイユ
デカチャレ	蒔	まっしろ



旧小原村・古民家演劇企画「はなやしき」



しばふでクラフト演劇体験!



和でつむぐ 豊穰の風光

2024

コース	プロジェクト名	団体名・企画者名
デカス	一明かりと戯れ 影と遊ぶー オバラ おかげ祭	オバラあかりの華プロジェクト
デカス	ららら繋がるわたしたちのこえとこえ 緑のアーティストスペースにおいてん	永田 佳暖
デカス	ゴミでつながる、みえる、とよた	530connection
デカス	豊田小原「限界音楽祭」	水野 茂朋
デカス	神無月のころ 矢作川の神々と妖怪どもが川下り	矢作川水族館
デカス	見える、見えない、そのあいだ	鷹巣 由佳
デカスタ	Fujioka Art Project	愛知県立加茂丘高等学校3年
デカスタ	つむぐクエスト～小原和紙で時間旅行～	水野 優菜



豊田小原「限界音楽祭」



一明かりと戯れ 影と遊ぶー  
オバラ おかげ祭

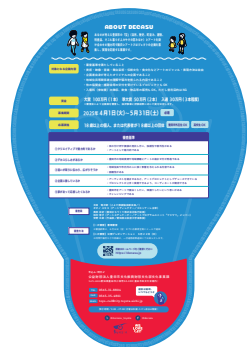


見える、見えない、そのあいだ

広報活動



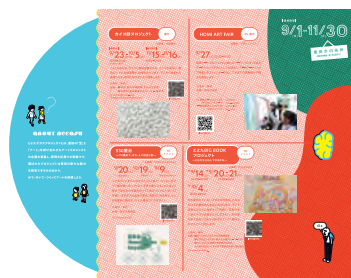
ポスター(B2)  
チラシ(A4)  
【表】



チラシ(A4)  
【裏】



パンフレット  
【表】



パンフレット  
【裏】



Webサイト  
<https://decasu.jp>

とよたデカスプロジェクト2025  
実施報告書

2026年3月 発行

編集・発行:とよたデカスプロジェクト事務局(公益財団法人豊田市文化振興財団 文化部文化事業課内)

デザイン・印刷:Stammtisch

© 2026

〒471-0035 豊田市小坂町12-100(豊田市民文化会館内)

TEL:0565-31-8804 FAX:0565-35-4801